

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 西 沢 淳 男	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>昨年度の中核となる仕事は、東京大学史料編纂所に所蔵されている「代官竹垣直道日記」の翻刻作業である。日記は古代・中世史研究においてはよく利用されるものであるが、近世史研究においても近年利用が活発になってきている。日記には公務は勿論、その時代の生活・文化・風俗や各種通達の写しなど多岐にわたっており、史料翻刻は学会の共有財産として広く活用されていくべきものとして、翻刻の掲載と公開をはじめた。日記は文字が難解な上に紙幅の都合で、学内学会機関誌に毎年1年分(2冊)のペースの公表を予定しており、24年度末に1冊分の翻刻を発表した。</p> <p>次に江戸時代の幕領支配をおこなった代官約1300名収録の初の本格的な人名辞典として『徳川幕府 全代官人名辞典』(東京堂出版)を25年度に発刊すべく、現在全国の研究者約40名を動員し、編著者として編集・執筆作業をおこなっている。多くの代官について史料が少ない中で、新史料の発掘をおこない、現時点での最高水準のものを目指している。</p> <p>地域貢献として、県外では長野県飯島町の「歴史的資産を活用した地域活性化の取り組み」について、地域史ゼミとして連携し、同町において平成23年度よりゼミ合宿をおこない、教育委員会(飯島町歴史民俗資料館・飯島陣屋)との懇談や調査・提言をおこなっている。本年度もより協力体制を強化していく予定である。</p> <p>一方、県内では24年度の群馬県による「地域・大学連携モデル事業」に甘楽町より課題提起された、古文書「織田様御代々覚書」の読み下し、現代語訳による、観光振興への活用事業を甘楽町長より委嘱され、古文書解説・翻刻作業をおこなっており、これにより観光素材の発掘と活用による観光振興への寄与や、古文書の記録内容を素材とした商品開発等が図られることによる地域の活性化に協力している。25年秋の完了に向けて作業を進めていく予定である。</p>	
<p>2 その他の事項</p>	